

# 鳥獣センター通信

## 鳥獣被害対策マイスターレベルアップ研修が開催される

県では、県内各地域で鳥獣被害対策を効果的に実施するため、平成22年度から、鳥獣被害対策マイスターを養成してきており、これまでに224名の方が認定されています。

これらのマイスターの知識と技術力のより一層の向上を図るため、今年度から新たに「鳥獣被害対策マイスターレベルアップ研修」をスタートさせました。

この研修では、①捕獲対策、②電気

柵、③小型獣対策、④鳥対策の4つの専門分野に分けて、それぞれの分野に詳しい外部講師を招き、室内と現地での研修を行いました。参加されたマイスターの方々は、大変熱心に受講されていました。

このように、皆さんの周りには優秀なマイスターの方々がたくさんいらっしゃいます。

現地等でお困りの際は、是非お問い合わせいただきたいと思います。



①捕獲対策研修



②電気柵研修



③小型獣対策研修



④鳥対策研修

### これならできる鳥獣被害対策（第5回） ～「暗視カメラ（センサーカメラ）について」～

皆さんは、野生動物の行動を間近で見たことはありませんか？

野生動物は農作物などを大胆に食べる一方、警戒心が強く、私たち人間の前になかなか姿を見せることはありません。

そのため、実際にどんな動物から被害を受けたのか特定できないことも多く、対策が難しいところなんです。

そこで、センターでは暗視カメラ（センサーカメラ）で野生動物の行動を確認し、その対策に役立てています。基本的には動物の動きに反応して録画が始まり、約1分間設定変更可撮影後、SDカードに保存されるという仕組みです。

いろいろと種類はありますが、3〜4万円程度の価格でも十分な性能があり、一昔前と比べても大変購入しやすくなっています。

興味のある方は遠慮なく、鳥獣被害対策支援センターまでお問い合わせください。



被害対策に関する問合せ

西臼杵支庁及び各農林振興局  
各市町村・各農協・各森林組合 等

# ☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

## 東臼杵(南部)地域

### ○リーダー研修を開催 200名以上を認定

当地域においても、県、市町村、住民が一体となった鳥獣被害対策に取り組んでいます。平成24年度の被害額は8千万円を上回っています。

そのため、これまでも集落毎のリーダー研修を実施してきましたが、今年度は、より充実した研修にするため、管内の5市町村、計11カ所で開催しました。

研修では、まず、室内において鳥獣毎の被害の実態、集落全員による追い払いや、えさ場を無くすことの重要性などについての認識を深め、その後、屋外において柵を設置する場合の注意事項と設置後の点検内容について研修を行いました。

このような研修により、今年度は新たに200名以上のリーダーを新規に認定する予定です。今後とも、これまでに認定したリーダーの皆さんを中心として、地元の美郷町にある県鳥獣被害対策支援センターとも連携を取りながら、地域一体となつて効率的な被害軽減対策に取り組んでいきたいと考えています。

### ○展示圃でカラス対策を 実証

近年、果樹園等で問題になっているカラス被害対策として、農研機構と徳島県が共同で開発した「くぐれんテグス君」の展示圃を日向市のミカン園に設置し、効果を実証しました。4mのダンポールを用いてテグスを1m間隔で天井部に張り、外周は防鳥網で囲みました。

設置の作業時間は約30m×30mの展示圃で、5〜6名で3時間程度要しました。

12月の収穫時期前に設置した結果、展示圃外のミカンで一部被害がありました。展示圃内にはカラスの侵入がなく、被害はありませんでした。

設置時間の問題はありませんが、一度設置すると長期に利用可能である他、補修も簡易なので、有効な対策と考えられます。今後、講習会等で広く周知をしていきたいと考えています。



展示圃設置状況（樹園の上にテグスを張っている）

## 北諸県地域

### ○都城市第1回サルサミット 開催について

北諸県地区では、23年度から都城市高城町田辺地区をモデル集落として鳥獣被害対策に取り組んでいます。

月1回の役員会の開催や、7月の集落住民が多数参加したサルの追い払い、情報共有、鳥獣被害対策についての知識の浸透を目的とした集落住民向けのサル新聞の発行など、地区役員を中心に積極的に活動しています。これらの活動により、地域での被害は減少傾向にあり、住民の鳥獣対策に対する意識の変化も見られるようになってきました。このような中で、他のモデル集落の方たちと情報交換をしたいという田辺地区からの要望により、25年8月2日、3日に県内初となる「サルサミット」を

開催しました。

初日は島根県美郷町の青空クラフトの安田兼子代表から「鳥獣被害対策から始まる地域活性化の取組」と題して、地域の活動の様子や鳥獣の皮革を利用した製品作りの事例などを紹介していただきました。

また、県内3カ所のモデル集落の事例発表や参加者同士で意見交換するとともに、田辺地区の緩衝帯設置の様子についての現地視察も行われました。

意見交換会では、予定時間では足りなくなるほど活発に地域の被害の様子や対策状況について情報交換が行われていました。2日目は24年実証証として簡易型シ力電気柵が設置された西岳地区の飼料作ほ場の視察を行いました。

今回のサミット開催は、県内他地域の取組状況や、今後の対策の参考となる情報を得る良い機会となりました。



②安田氏による講演の様子



③班に分かれての意見交換